

獣医生化学	生化学は生命現象を化学の目で(または物質レベル)で説明しようとする学問である。本授業は、生化学の基礎を理解するとともに高学年になって開講される応用、臨床獣医学を理解するための基礎として設定されている。本授業は、並行または連続して開講される「分子生物学概論」「生物化学」と連係をとり全体で現代「生化学、分子細胞生物学」を統一的に理解するようシラバスが組まれている。	生体内で起こっている基本的な化学反応を理解する。同時に、物質レベルで生命現象をながめる姿勢を養う。								
獣医生化学実習	タンパク質、酵素、DNAという生体を構成する基本的な成分に関して、その生化学的扱い方の基礎的な実習をおこなう。	生化学の主要な対象であるタンパク質、酵素、DNAをあつかう基本的な手法を学ぶ。さらに、定量的なデータのとり方、およびまとめ方を習熟する。								
獣医薬理学	広範な薬物をその主作用別に整理し、薬物が生体機能におよぼす作用とその機序を体系的に学ぶことにより、臨床における薬物治療の基礎を与える。	多くの薬物の作用機序を体系的に理解させる。臨床治療において適確に薬物を選択し、投与できるようにするのが目標である。								
毒性学	・一般毒性や特殊毒性など毒性学総論 ・生理的ならびに薬理学的な反応を基礎とした毒性の発生機構 ・毒性の有無を明らかにする各種の毒性試験 ・社会においてトピックとなっている薬理学・毒性学に関する知見	・獣医師としての毒性学における知識を持つ ・毒性試験の種類とその特徴について理解している ・社会的に問題となっている、毒性学・薬理学に関する事項について理解し議論できる								
獣医薬理学・毒性学実習	講義で学習した薬物の作用を復習するとともに、その作用機構について理解を深める。行動様式などへの毒性作用を学習し、レポートにまとめる能力を養う。 ・中枢神経、末梢神経、循環器系への薬物の作用 ・炎症、胃酸分泌、泌尿に対する薬物の作用 ・消化管運動、血圧への薬物の作用	・薬の作用点を、細胞、組織および個体レベルで理解している。 ・薬理・毒性学実験に必要な基礎的な手技を習得し、薬理的思考ができる。 ・実験において得られた結果を簡潔にまとめ、考察し、説明することができる。 ・コンピュータを用いた科学計算、統計処理、グラフ作成ができる。								
獣医微生物学免疫学総論	動物に病気を引き起こす病原因子として様々な微生物が関係している。中でも細菌・ウイルスはその主要な部分を形成している。これらの微生物の特性を理解して病気の予防・治療法の基本的な考え方を学ぶ。	微生物学(細菌学、ウイルス学)の基本的知識の習得を目指す。背景の知識として必要なものとして分子生物学が有るが、これは時間内で触れることによって関心を深めてもらう。								
獣医微生物学免疫学各論	個別病原体の性質と病原性を学ぶ	知識を得ることに最大の重点が有る。病原体の一般的性状と病原性の多様性などをきちんと区別して理解し、記憶につなげること。								
獣医微生物学免疫学実習	細菌培養法、生物学的性状検査、抗原抗体反応、ウイルス分離法、動物実験法等の初歩的な実験方法から始めて、個別細菌の性状検査、与えられた細菌の同定作業を行う。	微生物学的手技、観察法の習得を目標とする。								
獣医病理学総論	病理学とは病気の本態を究明する学問である。総論では各臓器に現われる同じ種類の病変を一まとめにして、退行性病変、進行性病変、循環障害、免疫病理、炎症、腫瘍と奇形に分類し、それら病変について形態学的変化を基盤にして講義する。	知識・理解の観点：国家試験の出題項目に答えられるか。 思考・判断の観点：基礎科目の習得の上で病的変化を理解しているか。 関心・意欲の観点：臨床科目の理解の基礎的知識を獲得したか。 態度の観点：講義に積極的に出席しているか。								
獣医病理学各論	獣医病理学は生体に生じる様々な形態学的変化を病理発生論的に学ぶ学問である。動物の各臓器・組織は解剖学的・生理学的にみても異なる機能を有しており、それぞれの臓器・組織によって病変の発生に特徴がある。臓器・組織別に原因並びに発病機構を解説する。獣医学の分野では産業動物のほか種々の動物を対象にしており、それぞれの動物種における好発病変の違いについても習得し、さらに診断学の基礎的知識の習得と臨床への展開をはかる。	知識・理解の観点：1.各臓器・組織の肉眼的、組織学的及び電子顕微鏡的レベルでの各病理変化の説明ができる。2.原因別に各種疾患の発病機構の説明ができる。3.各器官系の病理変化の関連を説明できる。 思考・判断の観点：1.様々な形態学的変化を動的にとらえて、その経過の説明ができる。2.形態的病理変化と生理機能異常の関連を説明できる。 関心・意欲の観点：発病のメカニズムについて関心を持ち、自分なりに解釈しようとする意識を持つ。 技能・表現の観点：解剖学、生理学及び病理学の用語を用いて、口頭及び文章による適切な表現ができる。								

獣医病理学実習	家畜・家禽の疾病の病理学的診断に関する基礎的知識・技術の修得を目的とする。各種動物の病理解剖学的検査法の実習を行うとともに、総論に従って基本的病変の基本的病変の顕微鏡による組織学的変化を観察して、その原因と発病機序などについての理解を深める。	知識・理解の観点：講義で習得した知識を生かしているか。 思考・判断の観点：観察によって病変を把握できるか。 関心・意欲の観点：実習に積極的に参加しているか。 態度の観点：疑問点について、納得するまで解決しようという態度があるか。 技能・表現の観点：病変を端的に表したスケッチができるか。								
獣医内科学	動物の内科疾患について、各器官別に総論的および各論的にその原因、病態、診断、治療、予防等について解説する。なお、ウイルス、細菌、寄生虫等の感染症の多くはそれぞれの専門講義に委ねる。	知識・理解の観点：個々の疾病について、その原因、病態、診断、治療、予後、予防等について理解すること 思考・判断の観点：授業での説明の順序とは逆に、症状から考えられる疾病をあげることができ (鑑別診断)、どのように診断を進めていくか(診断計画)、また病態、治療、予後および予防法について説明できるようになることが最終的な獣医内科学の目標である 関心・意欲の観点：基礎科目(解剖、生理、薬理等)を復習した上で授業に臨む 技能・表現の観点：専門用語を適切に使える								
獣医内科学実習	動物の疾患をいかに診断していくのかについて、問診、身体検査など一般的なアプローチの方法を習得するとともに、血液や尿などの材料の採取方法、ならびに確定診断を導くためのさまざまな臨床病理検査法を実習する。	知識・理解の観点：1. 基本的な診察の手法を習得する 2. 基本的な臨床検査法の意義を理解し、また実施することができる 思考・判断の観点：問診や症状、身体検査の結果から必要な検査項目を選択し、診断計画を立てることができる。 関心・意欲の観点：自主的かつ積極的に取り組む 態度の観点：自主的かつ積極的に取り組む 技能・表現の観点：専門用語を用いて適切な表現ができる								
獣医寄生虫病学	獣医臨床、家畜衛生または公衆衛生上重要な寄生虫病について概説する。蠕虫(ぜんちゅう)類、原虫類および節足動物について、分類、形態、生態および生活環などの基礎的な生物特性を解説するとともに、寄生による症状、診断法および予防法について講述する。	知識・理解の観点：1. 分類、形態、生態および生活環などの基礎的な生物特性を理解する 2. 寄生による症状、診断法および予防法を理解する 思考・判断の観点：1. どのような場合に寄生虫病を疑うべきか説明できる 2. 寄生虫病にどのようにアプローチするか説明できる 関心・意欲の観点：獣医臨床、公衆衛生、家畜衛生各分野における寄生虫病の意義について正しく理解している 態度の観点：出席は80%以上 技能・表現の観点：専門用語を適切に用いて、寄生虫病学に関する事項を口頭および文章で適切な表現による説明ができる								
獣医寄生虫病学実習	家畜の寄生虫の形態および生態について標本や実際の材料を用いて観察または実験を行い、また獣医寄生虫病に関する基本的な臨床検査・診断技術について実習する。	知識・理解の観点：1. 獣医分野において重要な寄生虫の形態や生態を実際に観察する 2. 基本的な臨床検査手技および診断技術を取得する 思考・判断の観点：鑑別診断の考え方ができる 関心・意欲の観点：自主的かつ積極的に取り組む 態度の観点：自主的かつ積極的に取り組む 技能・表現の観点：専門用語を用いて口頭および文章で適切に病態を表現できる								

獣医伝染病学	獣医の対象となる感染症に対して、疫学、病原体、臨床症状、病原体診断、病理診断、治療法、予防法を総合的に学ぶ。	知識・理解の観点：伝染病に対する予防法・治療法・診断法を総合的に理解するとともに、個々の感染症についての理解を深める。 思考・判断の観点：新規に発生した伝染病に対して、正しく診断し、予防・治療できる思考力を高める。 関心・意欲の観点：新聞等で話題になっている伝染病に対して深い関心を持ち、正しく情報収集できる意欲を持つ。								
獣医外科学総論	動物外科疾患の診断法、損傷、創傷治療および感染、外科侵襲に対する生体反応、輸液、麻酔法、外科手術の基礎知識、ショックと救急療法、化学療法と理学療法、腫瘍性疾患など、獣医外科の基礎について講述する。	知識・理解の観点：1. 獣医外科の基礎一般について説明できる。2. 外科手術の基本について説明できる。3. 基本的な外科療法について説明できる。4. 外科診断の基本について説明できる。5. 救急療法について説明できる。6. 麻酔の基本について説明できる。7. 外科侵襲の機構とその予防と治療について説明できる。8. 腫瘍の診断治療の基礎について説明できる。 思考・判断の観点：1. さまざまな外科的侵襲における生体の病態的变化の発生機序を説明できる。2. さまざまな外科的侵襲における生体の病態的变化の診断に関して説明できる。3. さまざまな外科的侵襲における生体の病態的变化に対して基本的な対処法を説明できる。								
獣医外科学各論	各種動物における皮膚疾患、ヘルニアなどの体腔の疾患、眼科疾患、頭部周辺の疾患、心・大血管系などの循環器疾患、鼻・咽喉頭・気管・肺などの呼吸器疾患、口腔・歯科・食道・胃・腸管・肝・脾・膵などの消化器疾患、腎臓・膀胱などの泌尿器疾患、生殖器疾患、脳・脊髄などの中枢神経系疾患、骨・関節・蹄病などの運動器疾患について、診断法と治療法を講述する。									
獣医外科学実習	犬と牛、あるいは動物モデルを中心に、動物の保定法、麻酔法、術後疼痛管理、消毒法、一般外科手術ならびに整形外科手術などの手技について実習を行う。	各種動物の保定法、麻酔法、術後疼痛管理、消毒法、一般外科手術ならびに整形外科手術などの手技について実習を行い、獣医外科学の診断や治療法について理解を深めることを目標とする。								
獣医繁殖学										
獣医繁殖学 実習										
獣医繁殖学										
獣医繁殖学 実習	家畜の繁殖障害に対する処置方法として、発情検査のための直腸・膣検査法、人工授精およびホルモン処置、乳房炎診断・予防技術等の基礎的な技術を習得すると共に、受精卵の回収および評価等応用面での理解を深めることを目的とする。また、胚移植に関する一連の先端技術に対する理解を深める。	知識・理解の観点：1. 卵巣・子宮・膣の所見が説明できる。 2. 卵巣のホルモン反応について議論できる。 3. 臨床現場での新技術に関する知識が高まる。 4. 乳房炎の治療・予防法について議論ができる。 思考・判断の観点：1. ウシの繁殖障害における最適のホルモン治療方法が選択できる。 2. 形態による胚の評価ができる。 技能・表現の観点：1. 卵巣所見による発情周期の判断ができる。 2. 乳房炎の診断ができる								
家禽疾病学	鳥類、特に鶏に発生する諸疾病について、原因、臨床症状および発生状況（疫学）、予防並びに治療を講述する。疾病は原因別に大別する。なお、鶏の解剖学的、生理学的および免疫学的特徴、さらには養鶏産業の実態などについても触れる。	知識・理解の観点：国家試験の出題項目に答えられるか。 思考・判断の観点：基礎科目との関連で理解しているか。 関心・意欲の観点：臨床関連科目と有機的に関連づけて理解しているか。 態度の観点：講義に積極的に出席しているか。 技能・表現の観点：設問に的確に答えられるか。								
獣医放射線学	まず、物質や生体に対する放射線の化学作用や生物作用を理解するために必要な基礎的事項を解説する。次に、X線発生装置、付属装置、X線撮影用器材、X線CT、磁気共鳴、画像（MRI）診断、関係法規などについて講述する。	臨床獣医学で診断や治療に利用される放射線、特に放射性同位体やX線についての理解を深めることを目標とする。								

実験動物学実習	各種の実験用小動物を対象としての飼育管理、実験手技および剖検法の習得を目的とする。各種薬剤投与法、採血法および組織標本の作製についての実習を行う。設備の整備された動物実験施設の見学およびビデオによる紹介を行う。	知識・理解の観点：講義で習得した知識を生かしているか・ 思考・判断の観点：観察によって病変を把握できるか。 関心・意欲の観点：実習に積極的に参加しているか。 態度の観点：疑問点について質問したか。 技能・表現の観点：動物を扱う上で手技は上達したか。								
魚病学	魚類の形態、生理、免疫機構などの基本的事項を講述するとともに、魚類のウイルス病、細菌病、寄生虫病及びその他の疾病について、その病因、症状、病理、診断法並びに予防・治療法などを解説する。	知識・理解の観点：疾病別の病因と病理学的特徴に関する知識を習得するとともに、変温動物である魚類の、哺乳動物とは異なる生理や免疫機構について理解する。 思考・判断の観点：試験の解答及びレポートが論理的で、しかもあらゆる観点からとらえて論じられている。 関心・意欲の観点：授業中によく質問し、レポートも多くの文献・資料をもとにまとめられている。 態度の観点：居眠り、私語もなく、授業に集中し、質問も多い。								
獣医畜産法規	農林、厚生、環境部門における獣医師関連諸法を解説	知識・理解の観点：獣医畜産関係の主要法規を説明できる。 思考・判断の観点：主要法規の基本理念と獣医師の役割(獣医倫理と獣医師の義務)について述べることができる。 関心・意欲の観点：獣医師としての社会的な役割に関心を持つことができる。 態度の観点：日常生活の中で獣医師の役割について主体的に考えることができる。								
専修獣医解剖学	最近のホットな話題をピックアップし、その解説と今後の展望に関して、討論を行い、独創的なアイデアを培うことを目標とする。話題に関する情報は前もって提供し、それを元に各自勉強してもらい、各自の意見・考えを授業時間中に発表してもらう。	最近のホットな話題をピックアップし、その解説と今後の展望に関して、討論を行い、独創的なアイデアを培うことを目標とする。								
専修獣医生理学	特に獣医神経生理学を講義する。	運動の制御を理解する。								
専修獣医薬理学	獣医薬理学の重要項目を体系的に整理した後、最新の薬理学における成果について概説する。	知識・理解の観点：疾病動物の治療に用いる薬物の主作用と副作用を適切に説明できる。複数の薬物の相互作用を説明できる。 思考・判断の観点：疾病動物の治療において、適切な薬物を選択し投与できる。 関心・意欲の観点：薬物の生体への作用と作用機構について常に関心をもつ。								
専修獣医病理学	産業動物・伴侶動物・実験動物等の細菌性・ウイルス性・真菌性・寄生虫性疾患について、講義を行う。	知識・理解の観点：スライドを提示して質疑応答する。 関心・意欲の観点：出席しているかどうか。								
専修獣医微生物学免疫学	時々話題を課題として講義する。感染症の研究法について講義する。									
専修毒理学										
専修獣医内科学	4、5年次に学習した獣医内科学の総まとめ的な講義である。実際の臨床例を中心に、検査データの読み取りを行い、問題点を探り、次にどのような検査、治療が必要かを考えることを通して、内科的な診断・治療の進め方を学ぶ。	知識・理解の観点：病態、治療および予防法について説明できるようになること 思考・判断の観点： 症状および身体検査所見から考えられる疾病をあげることができ(鑑別診断リストの作成)、またどのように診断治療を進めていくか(診断治療計画の立案)を企画することができる 関心・意欲の観点：自主的かつ積極的であること 態度の観点：自主的かつ積極的であること 技能・表現の観点：患者の状態を論理的に専門用語を用いて適切に表現できる。また病態、診断、治療計画をわかりやすく説明することができる。								
専修獣医外科学	実際の獣医臨床においては、それぞれの疾患に関する正確かつ最新の知識に基づいた適切な対応が求められる。本講では高度化する小動物臨床に対応するために、臨床的に重要な疾患に対して行われている最新の診断・治療技術について、最近のトピックスを交えながらより現実的側面から講述する。また大動物では実際の症例について講義する。	高度化する小動物臨床に対応するために、臨床的に重要な疾患に対して行われている最新の診断・治療技術について、最近のトピックスを交えながらより現実的側面から、また大動物では実際の症例について講義を行い、獣医外科学の理解を深めることを目標とする。								

家畜飼養学	飼料は生体に取り込まれる前の総エネルギーから糞中に排泄されるエネルギーを除いた可消化エネルギーを経て、さらに尿中エネルギーおよび反芻動物の場合はルーメン内微生物の発酵過程で生じたメタンのエネルギーを除いた代謝エネルギーになる。最終的には、代謝過程で生じる熱増加を差し引いた正味エネルギーが動物の維持や生産物に転換される。本授業では、その過程で生じるエネルギーの量的・質的变化についての基礎的な概念を理解してもらう。	知識・理解の観点：エネルギー代謝を理解する。 思考・判断の観点：生体でのエネルギー代謝と物質代謝の相互関係を理解する。 関心・意欲の観点：畜産物が生産されるまで、動物の体のなかでどんな変化が起こっているのだろうかに関心をもってもらえば成功。 態度の観点：家畜を飼うことの難しさ、大変さを理解する。 技能・表現の観点：実際、家畜を飼ってみたいと思うようになれば大成功。								
家畜遺伝学	家畜における、諸形質の遺伝現象を解説し、遺伝の仕組みについて、集団レベル、個体レベル、細胞レベル、分子レベルでの理解を深めることを目標とする。また、遺伝形質の捉えかたを、形態、代謝、分子多型の面から解説し、家畜のゲノム解析への理解を深める。	家畜や動物を対象として、 1) 遺伝変異の概念と遺伝の仕組みを理解する。 2) さまざまな遺伝様式を理解する。 3) 集団レベルの遺伝変異の解析法を理解する。 4) 変異の分子的基础を理解する。 5) ゲノム解析と分子進化の基礎を理解する。								
畜産学実習	おもに付属農場で実習する。また、山口県畜産試験場などを見学する。	知識・理解の観点：家畜が何を求めているか想像できること。 関心・意欲の観点：安全・安心な畜産物を生産することに意欲的になること。 態度の観点：辛い作業があるが、それから逃げず進んで経験すること。								
畜産物利用学										
畜産物利用学 農場実習	産業動物のみならず、野生動物の飼養管理や臨床繁殖について自ら体験実習することにより理解を深める。これらの動物の飼養管理、人工授精や妊娠維持とその管理、分娩等について体験実習する									
生物統計学	生物分野で要求される統計学、推計学に関する基礎的知識を解説し、各種検定法の正しい利用法と解釈を講義する。	獣医学で必要となる疫学統計および生物学実験における生物統計について基本的な処理方法を習得する。								
生物統計学演習	様々な統計値の意味と求め方を説明する。確率論を学びながら、統計値計算の基本的な演算技術を習得し、さまざまな統計的検定の方法について学ぶ。表計算ソフト Excel を使って、生物データをもとにした演習問題を解く。	知識・理解の観点：1.分散、相関関数などの統計値を求め、その意味を理解できる。 2.不確実な現象の構造を、確率分布の考えで理解できるようになる。 3.点推定、区間推定などの統計的推定ができる。 4.正規検定、t 検定、カイ二乗検定、分散分析などの統計的検定ができる。 5.応用として、たとえば、「細菌の集落が独立に分布しているか」、「服用する薬に効果があるだろうか」という具体的な問題にも解答を与えることができる。 思考・判断の観点：統計分析の方法は、ほとんどの学問分野、あるいは職場で必要とされる。将来どの分野に進むとも、有用な思考・判断力を養える。 関心・意欲の観点：不確実現象の数学的構造が理解できるようになるので、それらの現象についての関心が深まる。 態度の観点：純粋数学と異なる、経験法則という論理を身に付けることができる。 技能・表現の観点：Excel に習熟できるので、統計処理の技術を身に付けることができる。								
生物化学	この講義は2年次の「生化学」の内容を受け、まずその復習とヌクレオチドの代謝、生体膜について講義する。ついで細胞間の情報伝達系である内分泌系に付いて基礎的な分子機構を解説し、その実例をやや詳しく学ぶ。さらに細胞を形作る細胞骨格や筋肉の分子機構、細胞外マトリックスなどについて概説する。	知識・理解の観点：膨大な生化学の領域のアウトラインを理解し、将来どのような専門領域に従事してもその分子機構のディテールを学び取れるよう、最も基本的な知識をしっかりと身に付ける。 思考・判断の観点：細胞の中で起きている代謝反応の分子レベルでの理解に基づき、その変化や異常に接したときに本質を見抜いて適切な判断と対応が取れるような能力を身に付ける。 関心・意欲の観点：自分の体内、動物の体内で起きている様々な現象を分子レベルで説明することを常に心がける。								

分子生物学概論	分子生物学ないし分子遺伝学はあらゆる生命現象を理解するための基盤となる基礎分野である。獣医学における基礎および臨床研究を意識しながら、遺伝情報の発現の観点からより普遍的、基礎的に生命科学を体系的に整理して眺め、そこにおける知識と方法論を概説する。	知識・理解の観点：1) 遺伝子発現の基本的メカニズムが説明できる。2) 細胞の機能とその調節を遺伝子発現の観点から理解できる。思考・判断の観点：1) 生命現象の理解に分子レベルの解析、方法論をもって対処できる。関心・意欲の観点：1) 獣医学的基礎研究、臨床研究を分子生物学的立場で理解しようとする意思を示す。								
水産動物学	地球表面の70%以上を占め、生命が誕生した水圏環境とその保全について述べ、そこに生息する動物群を系統的に紹介する。水圏環境には動物界すべての群が出現し、水産上の有用種として一次産業の対象となっている種類が多い。このほか小型の有害種も多く、人類にいろいろな意味で影響を及ぼしている。これらの代表種を陸上のほ乳動物と対比させて講述する。	知識・理解の観点：水圏環境の特徴、動物界の系統分類 思考・判断の観点：漁業対象魚介類の特性、養殖魚介類の特性 関心・意欲の観点：食用有用種 技能・表現の観点：小テスト、英文和訳の完成度								
専門科学英語	本講義は英国人による授業で、英文の本を読むことを中心に、英語に慣れることと初歩の医学英語を学ぶ。	知識・理解の観点：1, 基本的な医学英語の単語が正しく発音出来る。2, 基本的な医学英語文を正しく読み、理解出来る。関心・意欲の観点：1, 医学英語に積極的に親しみ、日常的に読む態度を身につける。								
フィールド演習	鳥取大学、愛媛大学および広島大学のフィールド関連施設において、実習、講義、野外調査ならびに施設見学などを行い、自然と環境、生物の生態系、栽培技術などへの理解を深める。実習先は以下の3箇所から1つを選択する。 ・鳥取大学農学部フィールドサイエンスセンター教育研究林 ・愛媛大学農学部附属農場 ・広島大学生物圏科学研究科附属瀬戸内圏フィールド科学教育センター竹原ステーション	知識・理解の観点：自然と人間との関わり、生物生態系の重要性、生物生産と私たちの生活との関わりについて理解する。実習、実験で得たデータの解析、発表方法について修得できる。 思考・判断の観点：森林と人間の関わり、果樹の栽培技術と果実成分、海洋生物の生態などに関する思考が身につく。 関心・意欲の観点：フィールド関連実習全般について関心を持つようになる。 技能・表現の観点：調査方法、分析方法、データ解析方法および発表方法に関する技術が修得できる。								
就業体験学習	企業、官公庁または農業法人において、自らの専攻、将来の職業に関連した実習あるいは研修的な就業体験を行うことにより、自己の職業適性や将来設計を考え、主体的な職業選択および高い職業意識の育成を図る。									
G P項目別到達度判定方法（具体的に記述・箇条書き）			可以上で到達と判定する。	可以上で到達と判定する。	可以上で到達と判定する。	可以上で到達と判定する。	可以上で到達と判定する。	可以上で到達と判定する。		
総合的G P到達度判定方法（具体的に記述・箇条書き）			1. 獣医学科のG P項目の基準をすべて達成していること。 2. 卒業研究の内容に関する到達目標の達成度が基準に達していること。（達成度判定基準は別表1） 3. 卒業研究の発表に関する到達目標の達成度が基準に達していること。（達成度判定基準は別表2）							

例 卒業研究の達成度判定基準

発表内容に関する到達度判定				
判定する項目	判定			
1. 既往の研究を調査し、自分のテーマと関係づける。研究テーマ	H	M	W	
2. 自らが行った実験、調査の結果から、新たに得られた知見、問	H	M	W	
3. 研究結果に関して討議できる。	H	M	W	
4. 主体性を持って実験、調査を行う。	H	M	W	
5. その他注目すべき点				

発表技法に関する到達度判定				
判定する項目	判定			
1. 資料やスライド等が適切に用意されている。	H	M	W	
2. 発表の道筋をよく理解しており、発表の態度が堂々としてい	H	M	W	
3. 相手に理解させようとする努力が感じられる。	H	M	W	

4. 質問の意味を正確に把握し、的確な答えをスムーズに話すこと	H	M	W
5. その他注目すべき点			

注1) H (high) : 3, M (middle) : 2, W (weak) : 1 点とし、判定項目 (1) から (4) までの合計で点数評価す